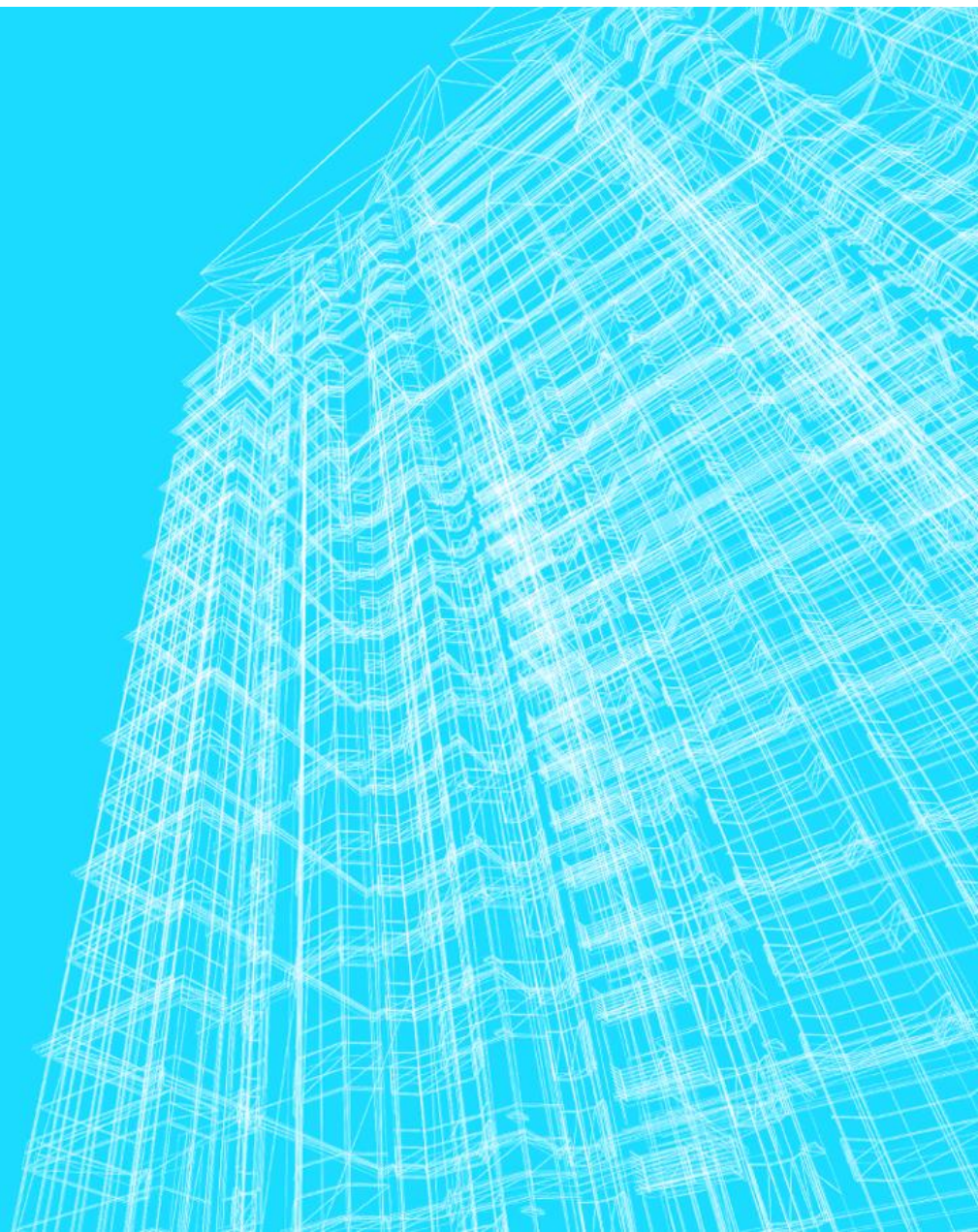
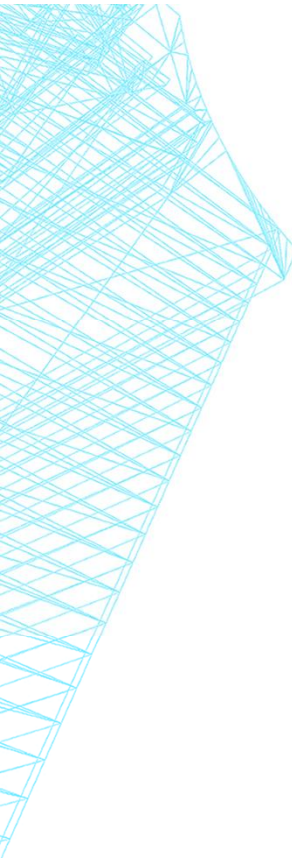


博士後期課程 経済経営リスク専攻 入試説明会

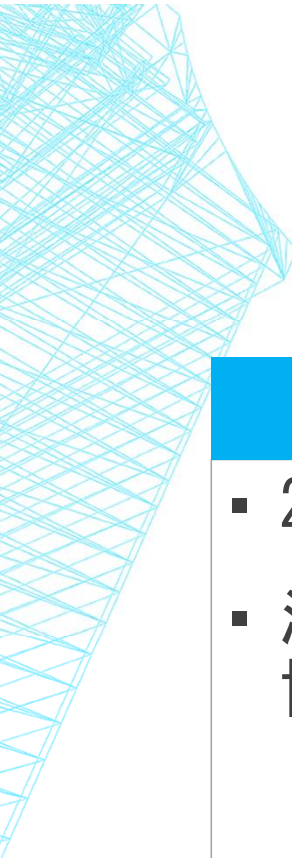
滋賀大学経済学研究科





目次

- 特色・教育理念
- 求める学生像と養成する能力
- 博士号をとるためには
- 入学試験
- 卒業生の進路



経済経営リスク専攻の沿革と特色

沿革

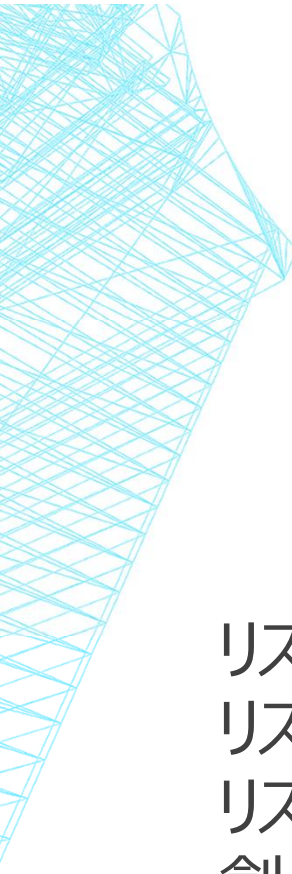
- 2003年
- 滋賀大学大学院経済学研究科
博士後期課程

経済経営リスク専攻設置

- 国立の社会科学系大学院で
「リスク」を研究対象とした
唯一の大学院

特色

- リスクの幅広い把握
 - 金融・経営・経済
- 学際的な母体
 - 経済学部



教育理念と目的

リスクに精通し、
リスクを適切に管理し、
リスクをふまえて新たな事業を
創出できる

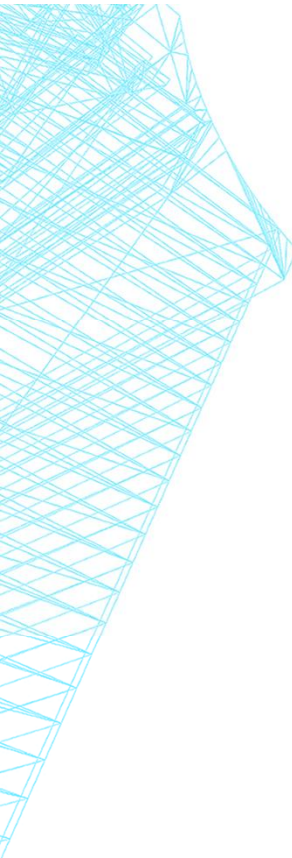
**「リスク・リサーチャー」
の養成を目的とする**

- **グローバル・スペシャリストの養成**

国際的な視野を持ち、環境に配慮しつつ、
地域社会にも貢献できる、個性ある専門職業人

- **その資質として3つの「識」を養う**

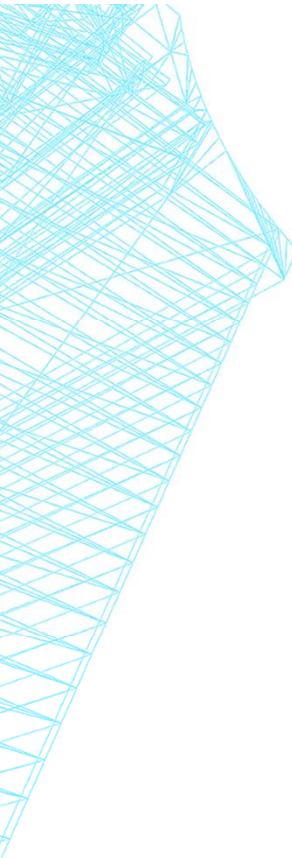
問題意識、専門知識、規範意識



教育研究分野

経済活動に伴って生じるリスクのうち、経済リスク、経営リスクに研究領域を設定し、その教育研究分野は「リスク基礎」及び「リスク発展」から構成されます。

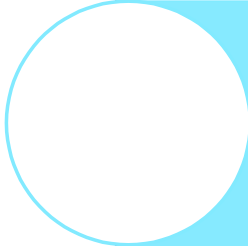
リスク基礎	経済・経営におけるリスク発生の可能性とその分析手法等、リスクに関連する基礎的な理論、分析手法及びリスクと経済倫理の関係について教育研究します。
リスク発展	リスク理論やリスク管理手法をふまえて、積極的にリスクを取りつつ、企業を創造し、産業を創造し、地域を創造する環境整備について教育研究します。



養成される能力



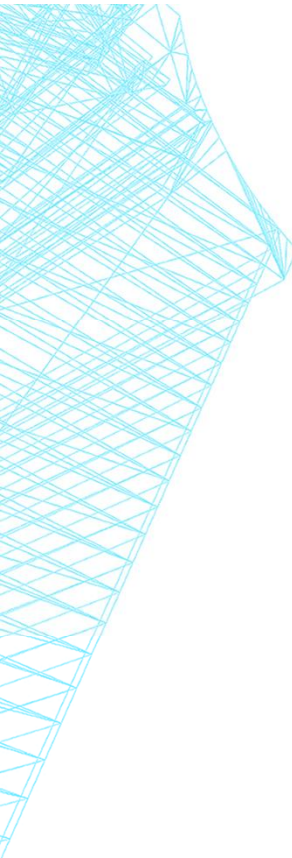
経済学および経営学におけるリスクに関する最先端の知識と研究能力を取得し、新しい事業を創造することができるリスク分析能力とリスク管理能力を培う。



派遣元企業や地方公共団体等で、リスク管理、企業創造、地域創造に関わって、指導者的役割を果たす人材を創出。



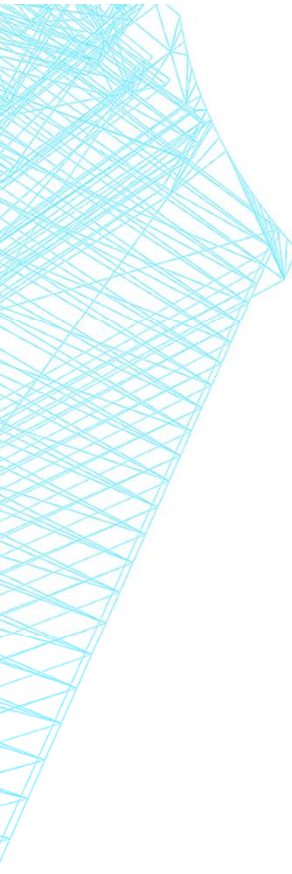
留学生は、帰国後、経済開発、地域開発、金融政策に携わる上級公務員または、ベンチャー企業家や経営コンサルタント等として活躍。



修了要件

- 3年以上在学して下記の単位（合計22単位）を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
（特に優れた業績を上げた学生を除く。）

リスク基礎分野科目群（各2単位）	リスク発展分野から2単位を含む4単位以上
リスク発展分野科目群（各2単位）	
フィールドワーク（2単位）	8単位以上
プロジェクト研究（2単位）	
論文演習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）	
ワークショップⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各2単位）	
特別演習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）Ⅲ（4単位）	8単位



複数指導教員による指導体制

- 学位論文の準備から完成にいたる全過程において、きめ細かな複数教員の指導体制のもと学位論文の完成を目指します。
- 複数指導教員の指導のもとで実施される「フィールドワーク」「プロジェクト研究」「論文演習」「ワークショップ」を選択必修科目とします。実際的な問題発見能力や解決能力、また柔軟で自立的な研究能力を培います。
- 学位取得にむけた必修科目として「特別演習」を各年次に配当します。「特別演習」は、指導教員と副指導教員が院生の到達度を評価し、学位論文準備や論文作成のために適切な研究指導を行うものです。院生の研究能力を評価し、方向付け、最終的に学位論文に結実するよう研究指導を行うことを目的とします。

博士論文提出への歩み

2度の研究報告会

・2回生:

D2研究報告会

(9月～11月)

・3回生:

中間研究報告会

(10月)

学位申請資格の認定を申請

(3回生9月)

申請資格の要件

下記の①または②

① 3編以上の公表論文(レフェリー制学術誌1編以上)

／2回以上の学会報告

② 学術論文として1年以内に公刊できる質と量を備えた原稿

学位論文提出

論文審査

最終口述試験

博士論文提出への歩み

2 回生： D 2 研究報告会

D 2 研究報告会は、「特別演習Ⅱ」の一環として、博士論文作成の重要なステップに位置づけられています。研究内容の質問だけでなく、学位論文を作成するに当たっての一般的な留意事項も含めて、幅広い助言なども得られます。



報告者の研究報告



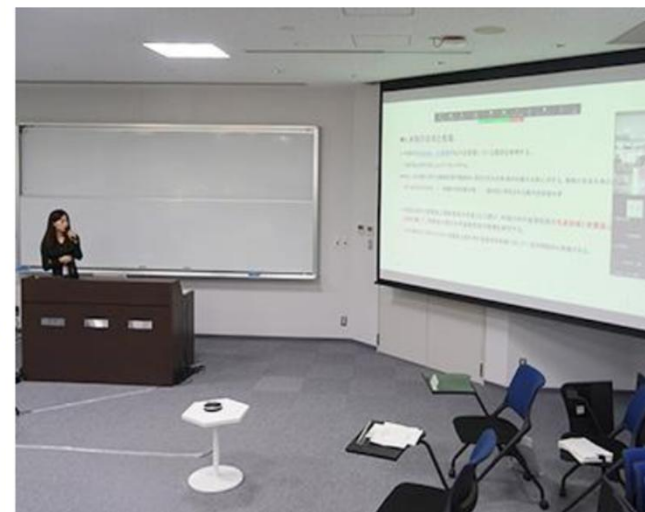
指導教員からの助言

博士論文提出への歩み

3 回生： 中間研究報告会



＜研究科長より挨拶＞



＜報告者の研究報告＞



＜指導教員からの質問等＞



＜会場の様子＞

令和5年度の様子＜<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/econ/3/2/1/26.html>＞

博士論文提出への歩み

2度の研究報告会

・2回生:

D2研究報告会

(9月～11月)

・3回生:

中間研究報告会

(10月)

学位申請資格の認定を申請
(3回生9月)

申請資格の要件

下記の①または②

① 3編以上の公表論文(**レフェリー制**学術誌1編以上)

／2回以上の学会報告

② 学術論文として1年以内に公刊できる質と量を備えた原稿

学位論文提出

論文審査

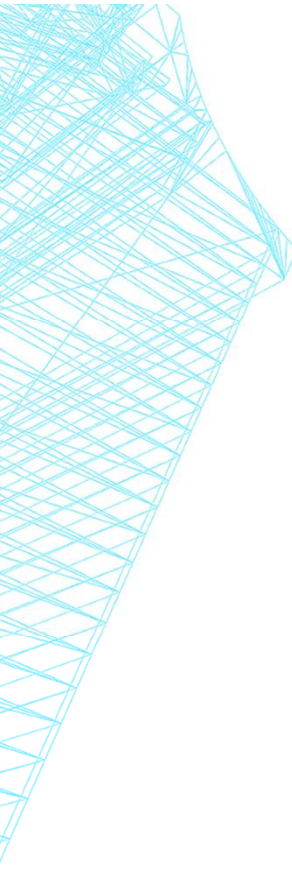
最終口述試験

公表論文のうち、レフェリー 制学術誌（査読付き論文）**1** **編以上**

査読とは、研究者が学会に論文を投稿する際に、あらかじめ同じ分野で研究をしている他の研究者による評価を受けること。論文の質、新規性、記載の体裁や有用性などが厳しく審査される。

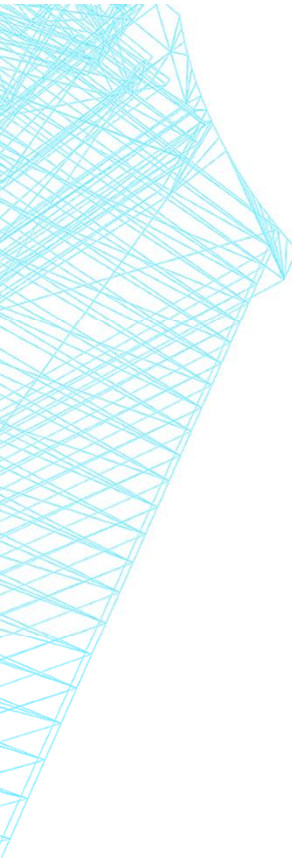
学位申請要件： 3編以上の公表論文





アドミッション・ポリシー

- いずれかの専門分野において修士課程を修了した者（見込含む）
またはそれと同等以上の学力がある者で、専門的知識を持ち、論理的思考力と表現力、リサーチ能力をもつ実務経験者ないしはそれに相当する人
- 経済学または経営学、及びリスクに関する知の探求と創造に高い意欲と能力のある人
- 国際社会・地域社会の課題の発見とその解決に高度な専門知識と見識・教養をもって指導的役割を果たすリスク・リサーチャーを目指す人



博士後期課程入学試験概要

募集人員

一般志願者・派遣志願者 **3** 名

出願資格

修士の学位をもつ者（見込含む）
またはそれに準ずる者

出願資格審査

令和 8 年11月24日16時までに申請

出願期間

令和 8 年12月16日～12月22 日16時

選抜日程

令和 9 年 1 月23日（土）

選抜方法

一般志願者

派遣志願者

論文審査

口述試験

英語外部検定試験の
スコアレポート

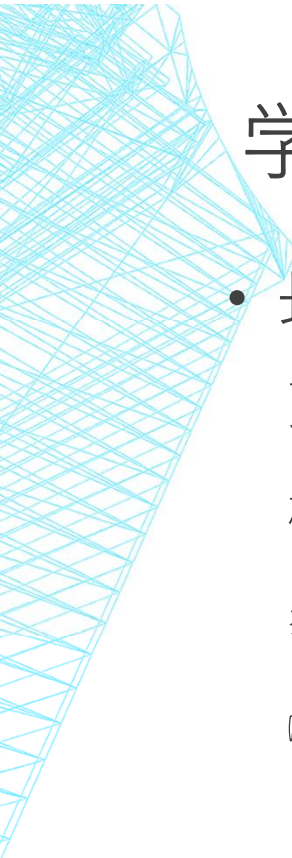
(提出可能な場合)
英語能力を証明する書類

(その他) 成績証明書等の提出書類

※詳しくは10月に公開予定の募集要項を参照

研究計画書と審査用論文

研究計画書	<p>本研究科所定の様式をダウンロードし，A4版（様式自由）で作成</p> <ul style="list-style-type: none">👉 日本語の場合は6,000字程度，英語の場合は2,500語程度👉 審査用論文の内容との関連を明示する。
審査用論文	<ul style="list-style-type: none">・ これまでの研究成果を示す論文（2点以内，各論文には要旨を付すること） <ul style="list-style-type: none">👉 原則として修士論文・既発表論文（日本語で10,000字以上，英語の場合4,000語以上）。



学生支援制度

- 長期履修学生制度

勤務等の理由で標準修業年限で修了することが困難な場合、標準年限（3年）を超えて一定期間（4～6年）で計画的に教育課程を修了し、学位を取得することができます

☞ 標準年限3年分の授業料総額を認められた修業年限で割った額で各年度に支払う

- 外国人留学生の授業料免除制度

入試成績優秀者は入学年度1年間の授業料全額を免除

- 奨学金制度



ご清聴
ありがとうございました

